



五百城文哉《東照宮・陽明門(部分)》1894-1905年頃 当館蔵

五百城文哉誕生  
160年記念

# 放菴と文哉

- THE 160TH ANNIVERSARY OF BIRTH OF IOKI BUNSAI -  
BUNSAI AND HOAN

小杉放菴記念日光美術館



2023 12.2  
SATURDAY  
2024 1.28  
SUNDAY

[主催] 公益財団法人 小杉放菴記念日光美術館／日光市／日光市教育委員会

[休館日] 毎週月曜日(1月1～3日は特別開館。1月8日祝日は開館し、1月9日を休館)  
年末休館 12月29日～31日  
年始休館 1月4日～6日

[開館時間] 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

[料金] 一般730(650)円、大学生510(460)円、高校生以下無料

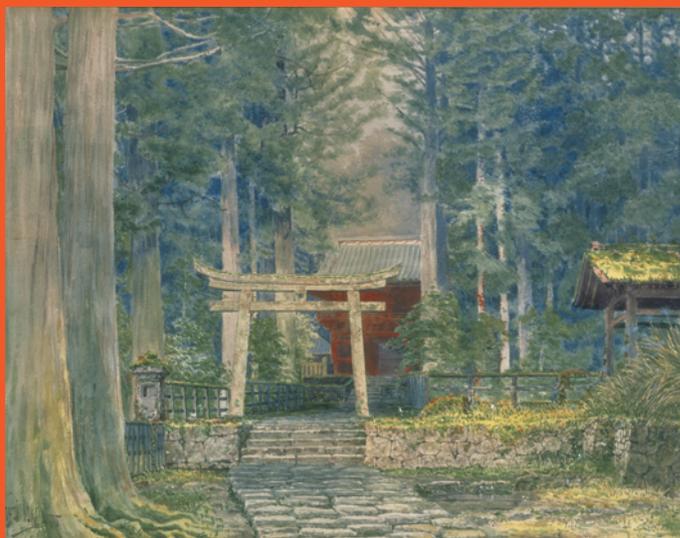
※( )内は20名以上の団体割引料金※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、日光市公共施設使用料免除カードの交付を受けた方とその付き添いの方1名は無料※第3日曜日「家庭の日」(12月17日,1月21日)は、大学生以下無料※日光市民は一般300円、大学生200円、高校生以下無料



小杉未醒(放菴)《神橋(部分)》1901年頃 当館蔵



五百城文哉《駕籠かき》1892-1905年頃 当館蔵



五百城文哉《滝尾神社・鳥居》1892-1905年頃 当館蔵



五百城文哉《村娘》1898年頃 当館寄託 [栃木県指定有形文化財]

五百城文哉(いおき・ぶんさい、1863-1906)は、水戸藩士の家に生まれ、高橋由一に洋画を学んだ後、晩年を日光で送った、洋画黎明期に活動した画家の一人です。日光では幼い小杉放菴に絵を教え、放菴はこの師のことをずっと大切に想っていました。近年、牧野富太郎からも認められたという植物学の知識に基づく、高山植物を中心とする精細な植物画で、五百城の人気は高まっているようです。

一方で、五百城が日光で残した仕事として、「土産絵」の存在を忘れるわけにはいきません。1890年代後半から1900年代にかけて、日光や横浜で外国人旅行者向けに、日本の風景・風俗を描いた水彩画がお土産としてたいへん人気を博した時代がありました。日光では、産業振興を目的とする美術工芸品陳列場「鍾美館」が1894(明治27)年に、同様の役割を担う「日光美術館」が1905(明治38)年に開業しています。これらの店で一番人気の画家だったのが、五百城文哉でした。五百城を中心とする、日本の風俗を活写し社寺を精緻に描きあげた「土産絵」の数々は、正当な美術史からとりこぼされてきた、もう一つの美術史がこの日本にあったことを、私たちに教えてくれます。

本展では、五百城文哉の生誕160年を記念して、当館が開館以来収集してまいりました五百城の作品や資料を、弟子である小杉放菴や、同時代に土産絵を描いていた画家たちの作品と共に会し、この日光で育まれた師弟の芸術をご紹介します。

五百城文哉生誕  
160年記念

# 放菴と文哉

- THE 160TH ANNIVERSARY OF BIRTH OF IOKI BUNSAI - BUNSAI AND HOAN

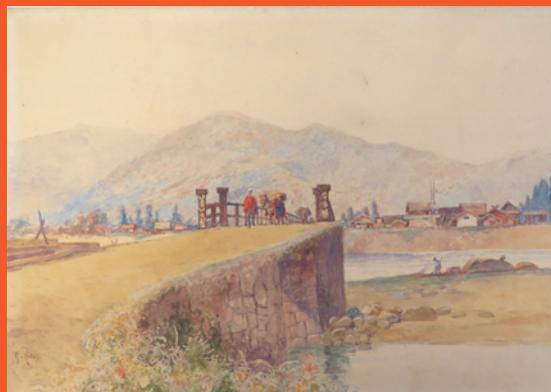
小杉未醒(放菴)《東照宮》1900年代 当館蔵



小杉未醒(放菴)《黄初平》1915年 当館蔵



小杉未醒(放菴)《今市橋》1900年代 当館寄託



## GALLERY TALK

担当学芸員によるギャラリー・トーク  
(予約不要・要入館料)

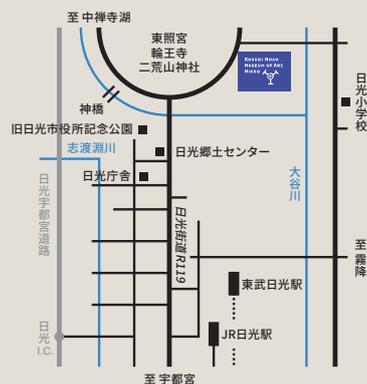
2023年12月9日[土] / 2024年1月14日[日]  
各時間:午前11時より(1時間程度)  
参加方法:入館券をお求めのうえ、お時間までにお集まりください。

## ACCESS INFORMATION

[電車] 東武日光駅、JR日光駅から東武バス「世界遺産めぐりバス」もしくは奥細尾、清滝、中禅寺温泉、湯元温泉方面行バス5分。  
「神橋」停留所より徒歩3分。

[車] 日光宇都宮道路・日光インターから約2km

[駐車場] 併設の市営駐車場をご利用ください。  
美術館受付で駐車券を提示していただくと、1時間まで無料となります。



KOSUGI HOAN  
MUSEUM OF ART,  
NIKKO



小杉放菴記念日光美術館



www.khmoan.jp

〒321-1431 栃木県日光市山内 2388-3  
TEL.0288-50-1200 FAX.0288-50-1201